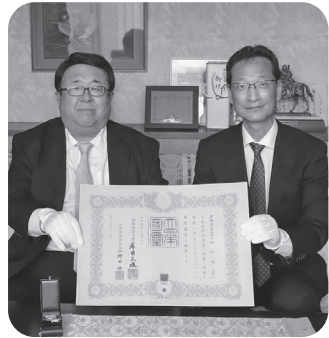


令和4年秋の褒章

黄綬褒章

田村

明男さん(横田)



田村さんは昭和60年、28歳の時に釧路清酒の代表社員に就任されて以降、多年にわたり酒造りに精励されてきました。高い製造技術を有され、釧路清酒のお酒は国内外の賞を多数受賞しています。また、自社だけでなく、酒造業界全体の安定と発展にも多年にわたり貢献されており、現在も島根県酒造組合の会長・代表理事として、引き続き尽力されています。他の模範となるような業績が認められ、この度、受章の栄に浴されました。

令和4年秋の叙勲

瑞宝双光章

石田

正博さん(三成)



石田さんは昭和47年1月、仁多町消防団に入団されて以降、退団までの37年10か月にわたり、地域防災に貢献されてきました。平成17年3月から退団までの3年9か月は、奥出雲町消防団副団長の要職を務められ、地域消防の発展に尽力されました。また、平成16年から現在まで、島根県中小企業団体中央会の理事を務められるなど、消防と中小企業振興に貢献された功績が認められ、この度、受章の栄に浴されました。

瑞宝中綬章

谷河

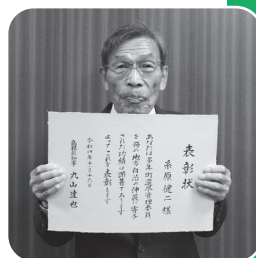
精規さん(島根リハビリテーション学院長)



谷河さんは昭和51年、島根医科大学医学部に助教として就任されて以降、統合後の島根大学医学部でも教授を務められ、平成19年に退官されるまで、長年にわたり教員を務められました。退官後は島根大学医学部名誉教授を授与されるとともに、平成21年から現在まで、島根リハビリテーション学院の学院長を務められています。多年にわたり教育と研究に貢献された業績が認められ、この度、受章の栄に浴されました。

令和4年度島根県各種功労者表彰

各分野において県勢の発展に大きな貢献があった方を島根県知事が表彰する「島根県各種功労者表彰」に、町内から次の方が表彰されました。



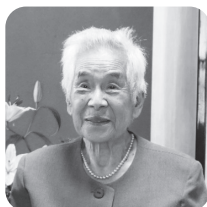
功労分野 地方自治 糸原 健二さん(三沢)

糸原さんは、平成21年6月から3期12年にわたり、奥出雲町選挙管理委員会委員長をお務めになりました。その間、国政選挙を8回、地方選挙を12回と、数多くの選挙において、選挙事務全般の円滑化と効率化に大きく貢献され、地方自治の進展に寄与されました。



功労分野 土木 川角 邦生さん(阿井)

川角さんは、建設業に47年間従事され、その間、災害対応や積雪時の除雪にも尽力するなど、地域住民の暮らしの安全に貢献されています。現在は、奥出雲町建設業協会会長、仁多地区建設業協会副会長に就任されており、社会基盤の整備に寄与されました。



功労分野 防犯 山田 文子さん(三成)

山田さんは、鬼の舌震の飲食店「舌震亭」を経営する傍ら、70年以上にわたり、来訪客に犯罪被害防止や遭難事故防止の呼びかけを行うなど、地域の安全推進に尽力されています。現在は、雲南警察署から鍵かけ100%推進大使、飲酒運転100%なくし大使を委嘱されており、防犯意識の高揚に寄与されました。

横田中学校緑の少年団

令和4年度全国緑の少年団活動発表大会出場

横田中学校緑の少年団が、全国約3,100団が加盟する緑の少年団のうち、優秀な活動を行っている上位5団体に贈られる「みどりの奨励賞(国土緑化推進機構理事長賞)」を受賞し、11月12日から13日にかけて大分県で開催された、第45回全国育樹祭の併催行事である全国緑の少年団活動発表大会で活動発表を行いました。

全国大会への出場にあたり11月7日、役場仁多庁舎で開催された激励式には、3人の出場者のうち村尾藍さんと藤原桜香さんの2人が参加し、村尾さんはしっかりと発表してきたと思っています。藤原さんは「全国育樹祭に行けるということに感謝し、精一杯発表してきます。」と意気込みを述べました。



緑の少年団は、次代を担う子どもたちが、緑と親しみ、緑を愛し、緑を守り育てる活動を通じて、ふるさとを愛し、そして人を愛する心豊かな人間に育っていくことを目的とした活動です。横田中学校緑の少年団は、令和3年7月29日に開催された、第32回島根県緑の少年団発表大会において最優秀賞を受賞し、令和4年の全国大会に推薦されていました。

山陰酸素工業株式会社から小型LPガス発電機を寄贈頂きました

山陰酸素工業株式会社から町に対し、小型LPガス発電機を贈呈頂きました。この発電機は、同社が地域に根差す企業として重点を置く、地域の防災を目的として寄贈頂いております。家庭などに広く普及しているLPガス50kg容器で約4日間、電気を供給できることから、災害等の不測の停電時にも照明や携帯電話の電源として活用でき、災害時の安全確保に繋がることが期待されます。



11月18日に役場仁多庁舎で開かれた贈呈式において、同社の並河元代表取締役社長は「エネルギーはライフラインの非常に重要なアイテムです。もし仮に寸断されたときにでも最低限の生活ができるよう、どこでも持ち運べるポータブル発電機を寄贈させていただいております。」と挨拶されました。

今回、寄贈いただいた発電機は、阿井の避難所に配備される予定です。

ダムの見える牧場

第五回松江ツーリズム研究会 観光大賞授賞

佐白にあるダムの見える牧場が、一般財団法人松江ツーリズム研究会基金が実施し、島根県の観光振興及び地域経済の活性化に顕著な功績のあった団体・個人を表彰する「第五回松江ツーリズム研究会観光大賞」を受賞し、同牧場代表の大石亘太さんが11月8日、糸原町長を訪れ、受賞を報告しました。



ダムの見える牧場は、牛との触れ合いや牛がいる景観を楽しむ「公園のような牧場」を目指して牧場を開放しており、観光客が牧場を訪れることで周辺施設の周遊にも繋がるなど、地域の観光に貢献した功績が評価されました。

高尾小学校 第53回博報賞受賞

高尾小学校が取り組む落語を取り入れた教育実践が、第53回博報賞を受賞しました。

高尾小学校は2013年4月から、総合的な学習の時間に落語を取り入れ、表現力や積極性の育成に取り組んでおり、審査では、言葉を通して思いを伝え、聞き手の思いを想像して、豊かな表現力を育んでいると評価されました。

11月22日に役場仁多庁舎で行われた、糸原町長への報告会では、6年生の和泉圭亮さんが「僕たちが頑張った成果が出たんだなと思っています。」と述べ、桑山校長先生が「ここにこの寄席は今年で10年目を迎えて、今までの卒業生を含めた子どもたちの努力の成果かなと思っています。」と述べました。

博報賞は、公益財団法人博報堂教育財団が実施する賞で、言葉の力を育むことを核とし、子どもたちの主体性を引き出し、すばらしい成果をあげている先駆性・独自性のある教育実践に贈られます。

受賞を祝い、11月27日には、高尾小学校で記念の寄席がありました。また、12月17日には、東京都内でも寄席を披露します。